

STAPLE NYC PIGEON

限定150足と噂されたスニーカーを買い求める人々の混乱で
 ニューヨーク市警察が出動したエピソードが語り継がれる1足

国内では2015年に公開されたドキュメンタリー映画「SNEAKERHEADZ (スニーカーヘッズ)」の冒頭で、ニューヨーク発祥のストリート系ハイブランド「STAPLE」を主宰するJeff Staple (ジェフ・ステープル) はニューヨークで勃発したスニーカー絡みの暴動に触れ、「バットを持ってくるヤツもいる。逮捕者まで出たけど誰も(列を)動かないよ。4日も徹夜で並んだからね」と語っている。そのエピソードの主演となったスニーカーが「STAPLE NYC PIGEON」であり、SNEAKERHEADZの冒頭に出演したジェフ・ステープルが2005年に提案したSB DUNKである。この「STAPLE NYC PIGEON」はニューヨーク限定で150足のみ販売された(諸説あり)プロダクトで、発売当日の店頭周辺は特別なスニーカーを買い求める人々に溢れかえりニューヨーク市警が出動。即刻発売を中止して人々を解散させる事を求められるも要請に従う者は皆無で、最終的には購入者を店の裏口からタクシーに乗せて脱出させたと伝えられている。

ヒールサイドに平和の象徴である鳩を刺しゅうしたピースフルなモデルであり、スニーカーの争奪戦を象徴するネガティブな存在でもある「STAPLE NYC PIGEON」。そのアッパーには位置によって表面処理を変え、異なるトーンのグレーに染めたレザーパーツを組み合わせ、ライニングやアウトソールに鮮やかなピンクを落とし込んでいる。そのピンクは鳩の足の色をサンプリングしたカラーであり、グレーのレザーパーツと描くコントラストはニューヨークの街で暮らす鳩を象徴する仕上がりだ。1万羽以上もの鳩が暮らすニューヨークでは、最も身近な鳥なのだろう。そうしたバックストーリーもニューヨーク限定で発売されたSB DUNKに相応しい。補足になるが「STAPLE NYC PIGEON」に使われる「鳩のピンク」はジェフ・ステープルが提案するNIKE以外のスニーカーにも多用されるもので、「Diamond Supply Co.」のティールカラーと同様に、そのカラー自体がSTAPLEが提案するコラボスニーカーのアイコンになっている。



NIKE DUNK LOW PRO SB

Release year : 2005

Style Code : 304292-011

資料提供 : WORM TOKYO

